

第1回（仮称）苫小牧市民ホールWG合同会議

【鑑賞WG】議事要旨

日 時：平成28年7月4日（月） 14：40～16：00

場 所：本庁舎2階 21会議室

出 席：委 員3名、事務局2名、北 大2名

■WG参加のきっかけ・現在の仕事・活動について

苫小牧独自のインパクトある施設にしたい

- 苫小牧は生活するにしても演奏会を開く身として大きすぎず、ちょうどいい規模のまちであると感じている。苫小牧らしい劇場を計画できたらと考えている。
- 楽団の全国ツアーなどで色々なホールを見てきたので、それぞれのホールで感じた良い点をこの場で伝えていきたい。
- 苫小牧の顔やインパクトのあるものとなるよう、施設づくりに関わりたいと思い応募した。
- 文化会館で活動していたり、市内のお祭りに積極的に参加していたりする。イベントの企画や発案者の立場からも積極的に意見していきたい。

芸術に関心のない市民も訪れることのできる施設にしたい

- 音楽や芸術にはこれまで関心を抱いてこなかったが、芸術に関心のない者でも来ることのできる場所を目指す意味で、積極的に意見を出していきたい。

■新たな施設への期待

目的が無くても訪れることのできる施設を目指す

- 今まで複合施設という感覚でホールを見ておらず、音響が良いホールが良いホールといった認識であった。基本構想のサードプレイスというキーワードを意識し、これからは複合施設のホールとして何がよいのか検討していきたい。
- 例えばロビーコンサートをするなど、ホワイエの位置などは複合施設を考える上で重要ではないか。
- 文京シビックホールという複合施設は参考になるのではないか。東京の文京区にある市役所を中心とした複合施設で、ホールも入っている。巨大な施設だが、ロビーコンサートをしていたり、全国各地の食べ物を売っていたり、音楽以外にも色々な情報に出会える場となっている。理想の形であるように思う。
- 音楽の他にも、色々なものがある場所であれば、芸術に造詣が深くない者でも入りやすいのでは。

- 苫小牧にはお洒落なカフェが少ない。千歳まで行くとお洒落なカフェがあるのだが、苫小牧にもそういったカフェがあると個人的に嬉しい。
- サードプレイスとなるような、たとえば図書館であれば読書だけでなく、お茶も飲めたり、音楽が聞けたり、ピラティスが出来たりと、選択肢があると良い。

開かれた場での活動を目指し、市民の接点を創出していく

- 普段はピラティスの教室はコミュニティセンターなどで行っている。しかし、壁で区切られた部屋にこもり活動しているため、関係のない市民との接点は全くといっていいほどない。例えば、仕切ってはああるけれど外からも見えるような場所であれば、気軽に活動を覗くことができ、活動への参加も促されるのでは。
- 苫小牧には吹奏楽など音楽を頑張っている方が多くいる。大きな空間で音が響くなど音響の設備を整えれば、そういった方々が無料コンサートなど活動を披露できるし、ダンスやピラティスなど様々な活動が出来るのでは。
- 苫小牧のイオンでも、舞台を作り発表をしている人を目にする。足を止めなくても、自然に沢山の人の目に触れる発表の場として良いと思う。市営の施設でそういった、そこに行けば色々なものが取り込めることが出来る場所があると良い。
- お散歩感覚で、その団体を知らない人が見ることが出来ることが大事であると思う。

子どもを遊ばせることの出来る場所を目指す

- 雨が降ると子どもを何処に連れて行くか悩む。だいたいイオンか空港になってしまうのだが、本を読める場所など子どもを連れて行って楽しい場所になると良い。
- 図書館は静かにさせないといけない。サンガーデンは子供にとって魅力的な遊具などが無く、子供がすぐに興味を無くしてしまい、長時間滞在できない。
- 道東では木育をしており、道立オホーツク公園など、無料で施設が提供されているのだが、素晴らしい建物。景色も良く、食事もできるし、コンサートなどもやっている。子どもにとって良い場所であると思う。
- 図書館に行ったり、文化公園でツリートレッキングなどのイベントをやっていたらそれに参加したりする。苫小牧では色々な場所で色々なイベントを行っているがその情報を知る手段がない。

苫小牧の活動の情報が一度に分かる場所を目指す

- 現在は、イベントや施設などの情報が散らばってしまっている。市民ホールでは、どこで何をやっているか、明確に分かるように、情報発信の拠点にしたい。
- 基本構想でも情報提供の「窓口」機能を考えている。情報の拠点というのは重要であると思う。
- 現在の情報収集の方法は、口コミや、Facebook がほとんどである。

- Facebookに苫小牧市民という市民が自由に情報を書き込むことができるグループがあるが、公式のものではないため、すでにできている興味関心以外のグループの情報が集まらない。観光協会の副会長が苫小牧市民全体で情報提供しあうインターネット上の掲示板があれば面白いと言っていたが、そのような苫小牧市民はこの媒体ひとつを見れば全て網羅できる場所があるといい。
- 市全体の活動の情報は、広報誌の紙面ではカバーできない部分もある。Facebookなどの市の提供している以外の媒体の活用や、新しい施設の機能として考えてみる必要があるかもしれない。
- Facebookのような情報提供の場を市役所で運営するのは難しい。例えばNPOなど半分以上民間がやると、独自で情報を集めることができ、可能性はあるのではないか。
- 情報が分散しているのは勿体ない。市の広報誌が以前は市民サークルの情報を載せてくれたが、最近は載せてくれなくなってしまった。
- 苫小牧は転出が多い。市民ホールでは、子育てや趣味など生活を楽しむための情報が一度に得られる機能が欲しい。
- 市民ホールに市役所的な役割が一部あってもよいかもしれない。たまたま用事で立ち寄った市民が芸術に親しむといったついで利用も考えられないか。
- 子育て世代から高齢者まで、年齢によって使う媒体も志向も違う。それらを網羅することが今後の課題では。
- 世代ごとに媒体を棲み分けてしていく必要があるのかもしれない。

■鑑賞機能として求められること

苫小牧としてどのような規模・スペックのホールがあればよいのか今後検討していく

- 舞台装置について希望がたくさんある。他の自治体では、市で持っている舞台装置があり安く使えるのに、苫小牧には無い。
- ヒップホップでもライトなど自費で業者に頼むしかない。
- 著名な人が来ても、苫小牧で受け入れられるような設備にしてほしい。
- 他の人に自慢できるような場所にしたい。札幌のKitaraは日本の宝だと思う。ホールから出たときに美しい景色があり、余韻に浸れる。そういう場所を苫小牧にも作りたい。
- 自慢したいものとして、高いスペックを持っているものなのか、市民が多く利用し、いきいきと活動できるものなのかは異なると思う。今後、どういうホール像を目指すかを話し合っていきたい。
- 苫小牧でやるべき活動を考え、最も適した規模感が考える必要があり、時には札幌に任せるという考え方もあると思う。市民中心型のホールの施設を目指す中でどのような活動を行っていくか、イメージを決めていくことが鑑賞部会で重要なポイントになるだろう。

■苦小牧の魅力とは

保守的なイメージがあり、今後は様々な市民がそれぞれを受け入れあっていく文化を魅力としたい

- 特徴的な苦小牧らしさがないのが苦小牧の特徴かなと思う。
- 苦小牧は保守的、シャイであるイメージだが、今後は同じグループの中に留まらず、違う活動をしている人に対しても、認め合って受け入れていく必要があると思う。
- 観光でいうと、室蘭なら白鳥大橋と有名なものがあるが、苦小牧でいうとどんなものがあるか。マルトマ食堂は混んでいるが、市民はそれほど行かないのでは。
- 観光客の方が苦小牧の良い場所を分かっているのでは。
- 苦小牧は食べ物もおいしいし、空港が近く、出張が多い人間にとってはとても便利な場所だと思う。

市民の居場所、コトマについて

- 一度、演奏会をしたことがあるが、席数が少なく、奏者と観客の距離が近い。リハーサルの際にカフェのお客さんに迷惑なのではと感じた。
- コトマはいつ行っても人が多くいるし、ダンスでいうと、小学生のダンスバトルなどを行っている。時々ディスコ世代の方も音楽を流して踊っていたりする。
- 練習スタジオがガラスになっていて、外から視線がはいるようになっていて、練習する側もいい刺激になっていると思う。
- 見学に行った際、高校生が勉強するなど、滞在している人が多いと感じた。

■次回に向けて

- 次回それぞれが知っている鑑賞にまつわる活動を持ち寄ってみて、情報を共有し、どのようなホールが理想なのか検討してみるのはいかがでしょうか。
- 文化団体に活動内容・活動場所に関するアンケートを取っており、次回のWGでは速報のかたちで結果をお伝えしたい。
- 苦小牧と同じくらいの人口規模の都市での市民ホールの事例を知りたい。苦小牧で一番有効に働くものは何かを知るためにも、必要な情報ではないか。

■今後のスケジュール

次回（第2回）：8月22日（月）13：30～ @市役所9階会議室

次々回（第3回）：9月16日（金）13：30～ @市役所2階21会議室